

高松学習館運営協議会（令和7年4月）会議録概要

開催日時 令和7年4月10日（木曜日）午後6時30分～8時10分

開催場所 高松学習館 第1教室

出席者 [委員] 神山敬章（明星大学名誉教授）

丸山あかね（立川市社会福祉協議会）

梅田茂之（自治会連合会栄町支部）

川合博（立川市高松児童館）

難波敦子（立川市生涯学習市民リーダーの会）

小原雅俊（たちかわ市民交流大学推進委員会）

栗原政子（学習館利用団体）

結城まり子（学習館利用団体）

戸井田宗二郎（公募市民）

欠席2名

[事務局] 鈴木峰宏（生涯学習推進センター長）、柳澤健太（高松学習館係長）

富田瑞代（会計年度職員）

定数の過半数の出席により会議成立とする。

議事

1. 会長あいさつ 皆様、今晚は。リモートがなく完全リアルでの開催となった。久しぶりに皆さんの顔を拝見して会議ができる。本日は新しく着任された鈴木センター長と柳澤係長が参加くださっている。新しいメンバーで新年度をスタートする。よろしくお願いします。

2. 報告事項

・事務局より下記について報告があった。

・ 人事異動について

委員の異動はなかったが、職員の方で異動があり、4/1付で新しく鈴木生涯学習推進センター長が着任。高松学習館は柳澤係長、石井職員が着任。

鈴木センター長よりあいさつがあり、今年度はセンター全体として第7次生涯学習推進計画を基盤に事業等を進めていく方針について話があった。各委員より自己紹介があった。

・ 寿教室開講式(4/9 実施)について

前年度収支決算報告、新年度役員の選出、各班の紹介などがあった。

今年度は49人の会員、5班体制で活動を始める。

・ 施設設備ほかについて

3月議会で補正予算が承認され、担当の健康推進課で外壁工事の手続きをする予定。

（委員より）

A委員：先ほど鈴木センター長から示された冊子について再度確認させていただきたい。

センター長：立川市第5次長期総合計画に基づき分野別個別計画素案の中に第7次生涯学習推進計画があり、現在22日までパブリックコメントをお受けしている最中。今年度よりスタートする計画となっている。

B委員：学習館にも置いてあるので閲覧できるようになっている。

先週土曜に市役所で個別分野計画が出揃い、関係部署がポスターセッションを行っていてセンター長とお会いした。

A委員：市のホームページにも掲載されているのか。

センター長：掲載されている。長期総合計画の個別分野計画の中に生涯学習推進計画があるのでご確認いただきたい。

3. 協議事項

(1) 前回議事録（案）について 承認された。

「学供」について質問があった。学習等供用施設と回答があった。

(2) たかまつり文化祭について

・作品展最終日(6/1)地運協ワークショップについて

事務局よりたかまつり文化祭の全体スケジュール、作品展期間中のイベントと作品展パンフレット関連の配布資料について説明があった。

公開教室（5月中）、作品展（5/31～6/1）、演奏会（6/7 プレコンサート、6/8 サークル発表会）

B委員：前回ご指摘いただいたことについて今回タイムチャートで示した資料となっている。参加したことのない委員さんはよくわからないかもしれない。本日決めないといけない点は何があるか。

事務局：6/1 地運協ワークショップの企画で児童館さんの昔あそびの内容について具体的に何か決まっていれば教えていただきたい。

C委員：児童館で昔あそびを実施したところ、「けん玉」が人気だった。

けん玉検定カードを作ってクリアしたらシールを貼っていく形で子ども達に好評だった。「メンコ」も作るころから参加した子どもが持ってきたら子ども達が興味を持って流行っている。作るのは時間がかかるので用意して自分で絵を描いて遊べるようにしたい。女子も可愛いキャラクターの絵を描いて遊んでいる。

B委員：和室で児童館職員さんの指導でそういった昔あそびのコーナーを実施していただける。他にもグリーティングカード、地域活動紹介の動画、市民リーダー展示、地運協紹介展示もだいたいまとまっている。

D委員：動画については地域の福祉アンテナショップ紹介は分数が少ないので他に団体の活動紹介動画を追加するなど相談したいと思う。どの位の長さが必要か。10分で終わって繰り返し流す形でよいか。

B委員：ループの設定をすればいい。いくつか動画を集めて10分で飽きないと思う。いくつかネタがある方がいい。

D委員：持ち帰って検討したい。

B委員：ミニ演奏会の方も連絡していただいているか。

事務局：出演者に演奏時間と会場について連絡をして快諾いただいている。

B 委員：地運協ワークショップの時間が午後 1 時～3 時に変更したのでミニ演奏会の時間を午後 3 時 30 分～4 時に変更した。作品展の締めくくりとして演奏していただく。6 月には演奏会に切り替わっていく流れでプレコンサートとサークル発表会を実施する。作品展で展示の作品の一部を演奏会まで展示を継続してもらう。サークルさんのご協力でこういったコラボできる。

事務局：6/1 当日お手伝い可能な委員さんを確認させていただきたい。

時間はワークショップの時間で午後からでお願いしたい。

梅田会長、丸山委員、小原委員、川合委員、難波委員、栗原委員、結城委員
栗原委員と結城委員は午前 10 時～ポップコーンづくりから協力いただけることになった。

事務局：くるりんに入れる方はいるか。

C 委員：児童館の職員に声かけをしてみる。日程が合うかどうか確認する。

B 委員：難しい場合は早めに回答いただくようお願いしたい。初めて方は講習が必要か。

事務局：初めての方は事前に体験していただく方がいい。前日までに時間調整をお願いしたい。

C 委員：くるりんの出演時間は何時頃になるのか。午後になるのか。

事務局：前は 2 回だった。午後 1 時 15 分頃～と午後 2 時 10 分頃～で 30 分登場で途中に休憩を入れていたと思うが、入ってくださる方のご都合で決めていただきたい。

B 委員：地運協ワークショップの時間帯の午後 1 時～3 時がいいかもしれないが、児童館で時間の都合を確認していただきたい。

ポップコーンの機械は大丈夫か。

事務局：今年度からシルバー人材センター錦町で借用することになっている。月曜と金曜のみ OK とのことで予約を入れていただいている。材料も購入する。

B 委員：市民リーダー紹介展示、地運協活動紹介展示も大丈夫か。

E 委員：準備する。

事務局：昨年度までのもぞう紙の展示物や前回会議で提案のあった地運協委員の紹介(名前と所属)を展示する予定。

B 委員：子どもの作品展示について、学社一体協働ということで近隣の小中学校に働きかけることは可能か。西砂学習館まつりでは近隣の小学校の児童の作品が展示されているが、センター内で学校と取次ぎをしてくれる担当はあるのか。高松学習館だと第 2 小学校や第 5 小学校になる。

センター長：計画にもあるが、このエリアの学校は第 2 小学校、第 5 小学校、南砂小学校、第 2 中学校との連携を目指しているところだが、今までに具体的なアクションはあったのか。

B 委員：今までは自治連主催の健康フェアに参加している程度で学校と直接ということにはほばないと思う。本来は地域学校コーディネーターを通してつながりができれば一番いいと思うが、高松地運協のメンバーにはいない。

センター長：連携していければいいが、受け手である学校サイドの捉え方もあるかと思う。高松地運協では学校と連携していこうという気運はお持ちなのか。

B 委員：以前に地域学校コーディネーターをお招きして話し合いをしたことはあるが、コロナ禍もあり、つながりが無い。

センター長：つながりを持つことはできてもそこから展開をどのようにしていくかが難しいところかもしれない。

B 委員：他の学習館では地域学校コーディネーターが地運協のメンバーに入っているケースが多い。

F 委員：第 5 小学校の地域学校コーディネーターさんは身近にいたので 声をかけていったらいいと思う。学校とつながりがあるのは健康フェアくらいになっている。

B 委員：山口委員が第 2 小学校とつながりがあるという話を聞いた。学校も新学期が始まり体制が整ったところだと思う。校長先生が異動となった学校もある。

G 委員：地域学校コーディネーターはいるが、立川で学社一体、連携と言っているわりにはそういう動きが全く見えてこない。どちらが主導するということではなくて定期的に情報を共有しながらイベントにどういう協力体制が取れるか、校長先生を巻き込まないといけない。アプローチをどういう風にしていて、高松は地域と子ども達がどういった連携を取るのか、年度計画を出していかないと今後の進展はないと思う。絵に描いた餅のような計画だと意味がない。第 7 次生涯学習推進計画の中でその一角の施設として何の事業をしているのか、地域、学校に見せる、見える形をとらないといけない。ここだけの話では進まない。消化ゲームをするだけではない。コーディネーターがいるならもっと動かないといけない。忙しくても来てもらうように、行政計画として市全体の方針の中に落とし込まれているのか、示していただきたいと思う。

F 委員：自治連が主体で依頼するから学校側は受けてくれている状況。

B 委員：例えば、高松学習館では市民リーダーさんを推しとして打ち出している特色がある。実際に市民リーダーが学校に部活や授業のアシストに行っているケースもある。

E 委員：校長先生の意向で行くことがある。校長先生にお会いする機会がない。そういう機会を作っていただけたらと思うが、学校、先生が忙しいというイメージがあるのでこちらから行けない。アポを取らないと行くわけにいかない。お手伝いできる面はあると思うが。

F 委員：防災訓練や救急の学習の場を作ってもらって学校から呼ばれて地域から学校に出向いた。

G 委員：学校は授業のカリキュラムがしっかり決まっている。こちらから持ち込むことはできない。学校、受け入れ先の理解があって、今年度ではなく来年度にということで、校長先生や地域担当の先生に持っていく。そのためには学校がどういう授業やイベントを実施しているか、地域のお手伝いボランティアが必要となるものがあるか、どういうところに P T A の協力が必要であるか。P T A もだんだんなくなっている状況もあるが、地域がどのように関わることができるのかを絶えず確認していかないといけない。学校側は土日が休みでカリキュラムに余裕がない。先生方も働き方改革でいろいろ持ち込まないで

ほしいというのが本音だと思う。そこに、校長先生が仕掛け人でどれくらいガバナンスをやるか、学校のカラーということになる。

F委員：昨年度、社会福祉協議会から地域の人達に声かけがあった。

D委員：小学5年生の授業に関わらせていただいた。立川市民科という授業があり、子ども達が地域のことを知りたいということで地域の人達に来てほしいという話だった。1回目は地域の人達にお声かけをして、地域の人達をとおして学びをする。3クラスの担任の先生がコーディネーターとやりとりをした。2回目は子ども達が地域に行つての学習をしたいということだった。

子ども達の方が地域のサロン等に行つて地域の人達に直接イベント参加へのお声かけをすることになった。また事前に手回しをしておいて、子ども達から地域の大人に電話をかけて台本を読みながらイベントにお誘いした。今回のテーマが孤独、孤立ということで、一つのクラスはイベントに來れない人達のことを考えて個人宅に行きたいという話になった。包括支援センターに相談したところ、個人情報観点から難しいが、損保の家という高齢者の住宅があり、訪問できることになった。帰る時に高齢者の方から子ども達に「風邪をひくなよ、元気でな、また来いよ」と声をかけてもらって昔のテレビ番組のようだった。3クラスあって、子ども達がやりたいことに先生方が協力して地域に相談しに來られて地域の方も協力いただいた事業だった。1コマは地域福祉コーディネーターの仕事の紹介をさせてもらい、つながりづくりの仕事をしていること等を話した。高齢者については包括支援センターの職員が説明した。高齢者の中には元気な人、病気の人、外に出ないと歩くことができなくなる人もいる等と高齢者についての学びをした後に高齢者のお宅に行き、昔の遊びや話を聞かせてもらった。カリキュラムがすごく一年間かけて実施すると先生方が決めた内容だった。

F委員：学校に行ったら子ども達がお茶を入れてお菓子を出してくれた。

D委員：おもてなしをしようと小学生が家庭科室でお茶を入れていたのが微笑ましかった。学年によって市民科のテーマが異なるようだ。

G委員：学年によって地域を知ろうとか、企業訪問、清掃体験等、積極的にやっている学校とそうでない学校もある。子ども達にできること、できないこともある。その辺のところはわからないので年に数回でも学校との接点を持つ機会があるといい。子ども達は体験しないことはわからない。今井悠介著書の「体験格差」（講談社）という本がある。体験をしていない子ども達が多くなっている。事例もたくさん載っていて、経済格差も関係している。時間や経済面で余裕がある家庭はたくさん体験ができる。子ども達の格差ができてしまった。

でも学校が全部やるのではなく、地域ができる範囲で子ども達と密着しながらやっていくのが社会教育でたかまつりは正にそこに入る。やるのとやらないのと全く違ってくる。昨年も実施したからではなく、子ども達の成長に合わせて、たかまつりでは子どもの目線に寄り添いながら経験を積ませてあげることがいいので、市全体で考えていただきたい。

B委員：生涯学習推進審議会でもそういう議論を重ねているが、この会議で実際に具体的な話をお聞きする方がよくわかる。

D委員：自分達にも勉強、学びがある。学校で午前の学校公開日の後、午後にゼロ円マーケットをやらせてもらった。独り暮らしの高齢者は不要な物がたくさんあるが、他に譲れないし、捨てられないという困り事がある。だったら欲しい人に物を通して交流する機会があればどうかということでゼロ円マーケットを実施した。子ども達にはボランティアという言葉を使わないで、ちょっと時間のある人でできることでいいから、手伝ってもらえないかとお願いしたら、3クラスで当日40人位お手伝いに来てくれた。お昼ご飯を食べてから戻ってきてくれた。土曜なので家族の予定のある子もいたが、できることをしようということで、当日のお手伝い他、当日来れない子は自分で考えてわかりやすいようにと案内板を事前に作ってくれた。ちょっと手伝ってという言葉で子ども達は動いてくれるのだなと思った。ボランティアでいうとハードルが高くなるが、地運協のワークショップ等も学校の方で周知やお話できる機会があるなら学習館でこういうイベントをやるのでちょっと手伝ってもらえないかと声かけすれば、行くと言ってくれる子どもがいるかもしれない。あとは顔が見えている人がいるのは子ども達にとって安心できる。授業で地域コーディネーターの宣伝をして自転車で地域を回っていたら子ども達から声をかけられて今度ゼロ円マーケットに行くからと言ってくれた。知っている人がいれば入りやすい。知り合いになることがいいと思った。

A委員：子ども未来センターの子どもまつりに知り合いが参加した。今回のテーマは子どもの権利条約ということで、ボードや玉入れの当たりの賞品で参加した子ども達にお菓子をあげた。親子一緒に参加してもらって親御さんに子どもの権利ということを知ってもらうきっかけになってなればということで実施した。去年のテーマは憲法の条文だった。こういうやり方もある。

B委員：自治連栄町支部でも去年は市民リーダーフェアを開催した。自治連や自治会ベースで市民リーダーさんと呼ぶことはあまりない。地域の子供達、親子が集まって市民リーダーってこういう人ということを知ってもらう機会となった。そういう意味では学習館は動けてないと思う。

A委員：弁護士さんに依頼すれば子どもの権利と憲法の企画と相談ということが実施できる。

D委員：学校の行事も確認する必要がある。

B委員：学校よりも皆さんで目を通していきたい。

G委員：学習館の年間計画を出す、学校や他の教育や福祉施設、秋だと様々なイベントが重なってくる。そういう交通整理は課題で子どもの奪い合いをしても仕方ない。だからこそ情報の共有をきちんとしていくことが大事になる。

B委員：計画に職員のコーディネート力とあり、地運協も協力したい。

今後は地域学校コーディネーターさんとコンタクトを取って少しずつ進めて大きなものにつながっていけばと思う。

ワークショップについてはその他、アンケートも大丈夫ということで全体的に大丈夫と思われる。

G委員：6/1 イベントの会場毎の人の配置図、役割分担、各会場のリーダー、緊急時の連絡について体制づくり、連絡網を作っておいた方がいい。

緊急時は個人で対応すると大変なことになるので、一覧のローテーション表を作成しておく必要がある。

B 委員：内部資料として作成しておく。どのタイミングで何をやっているか、パンフレットに記載されていれば来場者が今何をやっているか分かる。

サークル紹介が中心のパンフレットだが、イベントに特化したページがあってもいい。

(3) 地域活性化事業

- ・ 令和 7 年度地域活性化事業(案) 東京学芸大学との連携事業日程が追加されている。
- ・ 東京学芸大学との連携講座について

事務局：3/26 に東京学芸大学の倉持先生、梅田会長、難波副会長、事務局で行った打ち合せ内容について本日資料を配布させていただいた。

倉持先生と日程調整をして 11/30 と決めさせていただいた。学生さんの夏休み期間を踏まえ、広報〆切を見据えた今後のスケジュールについて相談した。4/24 に今年度の学生さんと顔合わせと打合せのため、梅田会長、難波副会長と事務局で学芸大に伺う予定。事業の企画内容については難波副会長より市民リーダーさんと種目について提案をいただくことになっている。

B 委員：倉持先生と調整させていただいて、たかまつり本番の日程を 11/30 に確定した。下期になるとゼミの学生さん達が留学や教育実習でいなくなる可能性もあるため、6/1 文化祭作品展のところで学生さん達の既存の企画で出し物をやっていただく枠組みを用意して依頼をかけた。4/24 に学芸大に伺うが、前週の 4/17 に前年度担当した学生のプレゼンが行われるとのことで、どの公民館(学習館)にするか選ぶそうで昨年度は 4 人の学生さんが高松学習館の担当になった。高松地運協から資料を出させていただいていいか確認したところ快諾いただけたので、過去に実施したたかまつりのビジュアルで分かりやすい資料を準備することにした。

A 委員：資料を渡すこともいいが、たかまつりではこういう企画を実施するというある程度の説明と主旨をまとめたものを配布できたらいいと思う。

B 委員：細かい企画案ではなく、大まかな企画内容を示す形となる。

A 委員：先ほどもお話にあったように、単にたかまつりを実施するというだけでなく、こういう企画、主旨で実施したから人が集まったという話がここできるといい。

B 委員：今までは学生さんに丸投げしていて地運協が協力する体制だったが、お話のとおり、地運協もコラボする形でお互いにいい企画を持ち寄って進めていく中でいいものができればと考えている。

E 委員：市民リーダーを 1 人確保しているので、アイデアの一つとして提案していきたいと思っている。こちらから提案していくことも必要だと思っている。学生さん達と打ち合せをしてから発表できたらと思う。学生さん達も夏休みが長く取り組める時間が限られている。

B 委員：6/1 文化祭作品展のワークショップの方は過去に実施した内容で手

間がかからないようにやっていただけたらと思っている。今年度は学生さん達に実際に文化祭に関わっていただいて課題を掴んで 11/30 たかまつりをより良いものにしていただきたい。

E 委員：毎年学生のメンバーが変わるので学習館に実際に来ていただいて学習館を知ってもらって企画を立ててほしいと思う。お互いに顔合わせして知り合えば行きやすい雰囲気があればいいと思う。

B 委員：難しいかもしれないが、学生さんに夏休み中に学習館に来ていただけたらいいと思う。リモートもあったが、コミュニケーションに問題もあるので対面でのやりとりがいいと思う。

A 委員：交流会をして親睦を深めることもいいと思う。

G 委員：学生さん達とコラボする事業については、基本的にゼミの学生さん達は社会教育の授業の一環であるので何となく丸投げしていた感がある。大学側は受け入れ先があることは嬉しいことだと思う。お互いがウインウインの関係になってきている。前年の学生のプレゼンを聞いてどこにするか選ぶ。今年のメンバーは来年いない。上手くいけば、今年のメンバーが今年も少し手伝ってくれるようになる。市とすれば学芸大とのつながりを強くしていける貴重な機会となる。

4. その他

- ・ 次回の開催日について確認した。
- ・ 学校たより

5. 地域課題共有

- ・ D 委員：中部たかまつ地域包括支援センターの主催で 5/31(土)に曙福祉会館でゼロ円マーケットを実施する。立川国際中等教育学校の吹奏楽部の演奏会もある。
- ・ A 委員：学習館 1 階の階段下の整頓をしてほしい。傘立ても鍵がついてないもので使いづらい。健康会館が移転すればスペースがあるならコーン等を収納していただければきれいになる。

以上